

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">社会福祉政策演習</h1>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	阿部 裕二	

## ■授業のテーマ

### 社会福祉政策の深層的理解

## ■授業の目的

1. 社会福祉政策の背景にある理念・考え方を理解する。
2. 公私関係や自律・自立の意味及び関係性を理解する。
3. さまざまな社会問題に対して、自分なりの社会福祉政策観を構築する。

## ■授業の到達目標

1. 社会問題・福祉問題の構図の変化に即して、社会福祉政策の今日の変容を背景となる理念・原理を含めて説明できる。
2. 自立と自律の意味と関係性について述べることができる。
3. 理念・原理に基づき、自らの社会福祉政策に関する意見を、他者に述べるができる。

## ■授業の概要

第二次世界大戦後の日本は、戦後復興の時期から高度経済成長を経て経済の低迷、その後のバブル景気から崩壊、そこからのがき・苦しみを経験してきた。また、今日の日本社会はマクロ的視点で見ると、グローバル化の進展、いわゆる社会主義を標榜する諸国の市場経済化、自由貿易の徹底化と反面での保護主義化という変動がみられる一方で、ミクロ的視点では少子高齢化・人口減少、家族構造及び産業構造の変化、そして財政赤字の増大などに直面している。このような背景の中で、私たちの生活を支える社会福祉政策もさまざまに変遷してきたが、同時に社会福祉に根幹を支える理念においても変容してきた。政策の動向を見る際には、理念や公私関係の変化とともに、人間そのものの有り様にも留意する必要がある。

そこで、本スクーリングでは社会福祉政策とは何かを踏まえつつ、社会福祉政策の基礎概念を理解しつつ、その根底に流れている社会福祉理念の変容をも考察したい。さらに、とりわけ公私関係（「公助、共助、互助、自助」）や「自立、自律」、「格差」などが政策の方向性として取り上げられている現状を踏まえ、それらの意味するところについても検討する。

## ■スクーリング事前課題（学修時間目安：6～10時間）

スクーリングまでに以下の事項に取り組んでおくこと。

- (1) 「社会福祉政策（論）研究」のレポート課題の再確認と理解。  
この点に関しては、スクーリング時の議論のテーマの一つとなる。
- (2) 自らの研究テーマ（研究課題）について社会福祉政策に関連づけながらレポートする。  
大学から送付された必読図書及びそれ以外の参考文献を読み、社会福祉政策と院生自らの研究テーマを結びつけてレポートすること。スクーリング時に各自に報告を求めらるので、事前にレジュメを作成して持参すること。それを素材にしながら他の受講生とともに議論する。

## ■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉政策概念の検討	オンデマンド
2	社会福祉政策とは何か	オンデマンド
3	ニード・権利・社会思想	オンデマンド
4	福祉ニードと供給システム	オンデマンド
5	オンデマンド課題の確認	対面
6	社会福祉政策の近代史（欧米）	対面
7	社会福祉政策の近・現代史と公私関係（日本）	対面
8	社会福祉政策その1（所得保障政策）	対面
9	社会福祉政策その2（健康保障政策）	対面
10	貧困・格差と新たな重層的セーフティネットの構想	対面
11	社会福祉政策における自立と自律	対面
12	社会福祉政策に受講生の研究分野を位置づけ、プレゼンおよび意見交換	対面

## ■スクーリングの事後課題

課題1 (事後課題)	社会福祉の制度は救貧の仕組みから発展してきたが、今日では、生活自立支援を柱にした制度体系へと変容している。この制度上の変化を促してきた背景にある社会的ニーズの変化について、自立と自律の関係を意識しつつ述べなさい。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

**課題1**  
アドバイス

社会福祉政策（制度）の変遷において、支援の構造と内容も変化してきた。その変化の背景には社会的ニーズの変容があるのは当然ですが、「自立」と「自律」の考え方もその根底に存在していると思います。「自律：autonomy」は、自分の考えに従って行動することを意味し、「自立：independency」は他へ従属せずに存在していることを意味します。その関係性に留意しつつ考察してください。

## ■評価の方法・基準

演習に対する評価基準は、事前学修の状況（10%）、演習への参加の度合い（20%）、演習内におけるプレゼンテーションの内容（20%）、そして事後に提出されるレポート（50%）を総合して評価する。

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

- \*1) 田中和男・石井洗二・倉持史朗編『社会福祉の歴史－地域と世界から読み解く－』法律文化社、2017年
- \*2) 坂田周一『社会福祉政策－原理と展開－（第4版）』有斐閣アルマ、2020年
- 3) 佐藤康仁・熊沢由美編『格差社会論 第3版』同文館、2023年
- 4) 小笠原浩一・武川正吾編『福祉国家の変貌－グローバル化と分権化の中で－』東信堂、2002年
- 5) 小笠原浩一・平野方紹『社会福祉政策研究の課題』中央法規、2004年
- 6) 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際－福祉社会学研究入門』東信堂、2006年
- 7) 日本社会福祉学会編『対論 社会福祉学1－社会福祉原理・歴史』中央法規、2012年
- 8) 日本社会福祉学会編『対論 社会福祉学2－社会福祉政策－』中央法規、2012年
- 9) 野口定久『人口減少時代の地域福祉－グローバルリズムとローカリズム－』ミネルヴァ書房、2016年